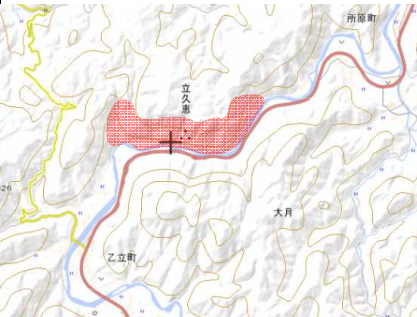


生物・生態サイトカード

通しNo.		C-1		更新日	2025/3/19
サイト名		たちく えきょう しょくぶつぐんらく 立久恵峡の植物群落			
基本情報	区分	☐ 動物 ☒ 植物			
	生息地	島根県出雲市乙立町(立久恵峡)			
	分類	立久恵:国指定名勝天然記念物			
	管理団体／保護団体／モニタリング	島根県			
	留意点	オッタチカンギク:しまねレッドデータブック(準絶滅危惧)等			
サイトの解説	生物・生態	立久恵峡は、出雲市内を流れる神戸川の中流部にあり、約1kmにわたり高さ50～150mの奇岩柱石がそそり立つ渓谷である。その景観が九州の耶馬渓谷に似ていることから「山陰の耶馬溪」とも呼ばれ親しまれている。 この渓谷は約1500万年前に形成された安山岩・デイサイト溶岩・火砕岩が、神戸川の流れてによって浸食されてできたもので、固まった溶岩が水蒸気爆発により角礫状になり、それらの岩片が厚く堆積した火山角礫岩層が広く分布している。礫を含む凸凹した岩場は、イワヒバやツメレンゲなどの岩場特有の植物の生育に適しており、多くの珍しい植物群落がみられる。 中でも、オオメノマンネングサは立久恵峡一帯にしか見られない島根県固有の種で注目される。この他、同じく県固有種のサンイントラノオや県固有亜種のオッタチカンギクの他、県内では珍しいイワギリソウやイブキジャコウソウなどが岩場に群落を形成している。 景観が優れていることなどから、一帯は1927(昭和2)年に国の名勝・天然記念物に指定された他、1964(昭和39)年には県立自然公園にも指定されている。また、珍しい植物群落がみられることから、立久恵峡特殊植物群落として1959(昭和34)年に出雲市の天然記念物に指定されているほか、立久恵峡断崖地植生として環境省の保全すべき特定植物群落の一つとしても選定されている。 立久恵峡一帯には、不老橋と浮嵐橋の二つの橋を通る周回歩道が整備されており、一部は中国自然歩道にもなっている。			
	地形・地質、歴史・文化等	立久恵峡を構成する火山角礫岩がつくる崖の凹凸、また直立した崖の太陽光を受けやすい環境は景観とともに特有の植生をつくる。			
写真・図等			オオメノマンネングサ		イワギリソウ
			サンイントラノオ		イブキジャコウソウ
参考文献		佐藤仁志(1993)日本列島花マップ. 立久恵峡. 18-23. 北隆館. 丸山 巖(1982)立久恵峡の自然. 立久恵峡の植物概況. 5-49. 島根県.			